

音	絵札	読み札	ポイント	解説
ら		楽道家 先人たちは 前を向く	『坂の上の雲』の主人公たち	司馬遼太郎さんは、小説『坂の上の雲』で、三人の主人公を通して、明治時代の明るく前向きな社会の姿を描きました。松山市では、主人公が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望を取り入れた『坂の上の雲』のまちづくりを進めています。
り		陸軍大将 のち校長 好古さん	秋山好古のエピソード	秋山好古は、軍務を退役したのちは、北予中学校(現松山北高校)の校長先生となり、教育者としても活躍しました。国際的な広い視野で物事をとらえ、スポーツを通して「質実剛健」な人間を育てたいと考えていました。
る		ルンルンと 歌を詠み詠み 石手寺めぐり	石手寺	愚陀佛庵に滞在中の子規は、石手寺吟行を行いました。石手寺は、四国霊場第51番札所で、国宝の二王門や国指定の三十塔など見どころが多くあります。
れ		連合艦隊の 作戦参謀 真之さん	秋山真之のエピソード	真之は日露戦争で、連合艦隊を率いる東郷平八郎の作戦参謀として活躍し、バルチック艦隊撃破に貢献しました。天才的な戦術により、東郷平八郎は真之を「智謀湧くが如し」と絶賛しました。
ろ		六巻の 人生の教科書 『坂の上の雲』	小説『坂の上の雲』	小説『坂の上の雲』は、司馬遼太郎さんが40代のほとんどをかけて完成させました。秋山好古・真之兄弟、正岡子規の三人の主人公の人生をたどりながら「近代国家」の仲間入りをしようとした明治の日本を描いています。